

令和5年3月13日 第153回運輸政策コロキウム  
「公共交通とソーシャルキャピタル」（閉会挨拶）

紹介頂きました、運輸総合研究所の城福です。本日のコロキウムの閉会に当たりまして、御礼、御挨拶を申し上げます。

会場の皆さま、そしてオンライン御視聴の皆さまには、最後まで熱心に本コロキウムに御参加頂きまして、誠に有り難うございました。

そして、御講演頂いた、埴淵先生、コメントを頂いた宇都宮先生におかれましては、大変に有意義な御話し、ディスカッションを頂きまして、有り難うございました。

本日の覃研究員の発表「公共交通利用とソーシャル・キャピタルの醸成」に至る背景は、ソーシャル・キャピタルを研究されてきた知見から、公共交通はソーシャル・キャピタルの醸成に関連するのではないか、その場合、公共交通の社会的利益を考える必要があるのではないか、との問題意識によるものと、理解しております。

本研究所では、その本分でもある、交通運輸の研究として、様々なテーマで公共交通に関する研究、調査を行っております。特に、地域交通については、近年の厳しい状況を克服し、将来を見据えて、持続的発展が可能となるよう、2050年のあり方、産業としてのあり方、高齢者の安全な移動確保といった、多様な切り口で研究を進めているところです。いずれのテーマも、究極の目的は、地域社会、ひいては我が国全体が、地球規模の環境問題にも対応し、多様性を包摂しつつ持続ある発展の維持を可能とすることにあり、そのためには、重要な社会資本・基盤である地域交通の確保・活性化が必要不可欠と考え、取り組まれているものです。

一方、覃研究員の研究対象であるソーシャル・キャピタルは、個々人の社会的・経済的な活動を縦糸とした場合、それらをつなげる横糸の役割を果たすものではないかとも理解しており、個々人の縦糸をソーシャル・キャピタルの横糸でしっかり織りなすことで、都市・地方の、あらゆる、地域社会の基礎体力や災害など危機管理上の耐性力が確立し、その基礎体力や耐性力は、地域社会、ひいては我が国の持続ある発展の基盤となるものと考えられます。

ですので、覃研究員の発表の、公共交通利用とソーシャル・キャピタルの正の相関関係の可能性は、現代の国・地域の喫緊の課題に対応するため、その確保・活性化が必要不可欠な社会基盤である地域交通について、改めて、経済的利益の

視点のみならず、社会的利益の視点から、その重要性和、そのあり方の研究に、新たな補強を示唆するもの、とも考えます。

研究所としても、引き続き、研究相互の気づきによる、相乗で、より有用性の高い研究につながることに期待して、また、皆様のお役に立てるよう、知見の共有、展開に、努めて参りたいと、考えております。

結びに当たりまして、会場そして御視聴で御参加頂きました皆様に、いつもの御願いでございますが、この後、アンケートを送信させていただきますので、本日のコロキウムの内容や進め方、今後、本研究所で取り上げるべきテーマなど、御考えのところを、是非、率直に御寄せ頂ければ、大変に有り難く存じます。皆様の貴重な御意見等を、しっかりと踏まえまして、私ども研究所の活動の改善に生かして、皆さまの御役に立てるよう努めて参りたいと思っておりますので、何卒、よろしく御願いを申し上げます。

改めまして、本日の皆様の御参加に感謝し、また、本コロキウム含め私共の活動全般を支えて頂いております、日本財団に感謝の意を表しまして、結びの挨拶とさせていただきます。

本日は、最後まで、有り難うございました。